

⑤Int.Cl.
F 16 l
F 16 j

⑥日本分類
65 A 311
53 D 41

日本国特許庁

⑩実用新案出願公告

昭47-610

⑩実用新案公報

④公告 昭和47年(1972)1月11日

(全2頁)

1

⑤管接手

②①実 願 昭42-66770
②②出 願 昭42(1967)8月1日
②③考 案 者 菊井薫
京都市左京区浄土寺南田町11
②④出 願 人 株式会社栗本鉄工所
大阪市東区唐物町4の26
代 理 人 弁理士 鎌田嘉之

図面の簡単な説明

第1図は本考案に用いるパツキングの拡大横断面図、第2図は本考案接手の一部拡大縦断面図である。

考案の詳細な説明

本考案はフランジ付の鑄鉄管の如き管の接手に関するもので、水圧に対して2段の防漏効果が得られると共に接続される管の端面が完全に平行しない場合においても充分な防漏効果を発揮できるものであり、しかも水圧によつて水密効果が一層高まるような構造になつてゐることが特記される

即ち本考案は任意のフランジ付管1, 1の接続すべき端面2, 2に、内寄りが深くなつた断面L形の環状溝3, 3を管1, 1と同心的に形成し、2個の円a, aを内側に1個の円bを外側に配し各円の隣接部を弧状断面の凹部Cとした横断面を有する環状パツキング4を該環状溝3, 3に跨がり、各円の外周面が環状溝3, 3の各面に密着するよう嵌合させたもので、図中5は管1, 1のフランジを連結するボルト・ナットである。

本考案は上記の構造であり、パツキング4はゴムその他の弾性変形をなす材料でできたものであり、丸ゴムパツキングを3個継ぎ合せた如き形状である。

しかして管1, 1の端面2, 2に形成した溝3, 3は内寄りが深くなつた断面L形となつておりこの溝3, 3にパツキング4を嵌装するにさいしては溝3, 3の内寄りの深い部分に各円a, aを圧入し、溝3, 3の外寄りの浅い部分に円bの

2

両側を圧入させるのである。

このようにパツキング4を装着してボルト・ナット5によつて左右のフランジを結合し、端面2, 2を密着させると、第2図の如く端面2, 2間の間隙はパツキング4にて完全に水密化される。

この状態において、管1, 1内の水圧によつて端面2, 2の内周間の隙間から水がパツキング4の方へ漏出しようとしたとき、溝3, 3の内寄りに漏出した水は先ずパツキング4の内側の円a, a間の凹部Cに水圧を加える。この水圧によつて左右の円a, aは溝3, 3の深い部分の外周面に圧着されこの部分において強力な防漏効果を生ずるが、この効果は内側の凹部Cに加わる水圧が大となる程大きい。即ち上記の部分において、第1段の防漏効果が発揮される。

次に左右の円a, aと溝3, 3間の隙間より更に外方に水が漏れたときは溝3, 3の浅い部分に密着する外側の円bの部分で漏洩が防止されるがこれが2段目の防漏効果であり、これら2段階の防漏効果によつて相当高度の水密性が保持されるのである。

又、本考案は各円a, a, bが各溝3, 3の各面に密着しておれば一応の防漏効果が得られるので、端面2, 2が完全に密着せずとも各円a, a, bが各溝3, 3の各面に密着するようにしておけば、管1, 1の設置の都合で、一方の管1に対して他方の管1が若干傾斜して端面2, 2が全周に互り完全に密着せぬような場合においても充分な水密を保つことができる等の種々の効果を有するものである。

実用新案登録請求の範囲

フランジ付管1, 1の接続すべき端面2, 2に内寄りが深くなつた断面L形の環状溝3, 3を管1, 1と同心的に形成し、2個の円a, aを内側に1個の円bを外側に配し、各円の隣接部を弧状断面の凹部Cとした横断面を有する環状パツキング4を該環状溝3, 3に跨がり各円の外周面が凹周溝3, 3の各面に密着するよう嵌合させた管接手。

(2)

実公 昭47-610

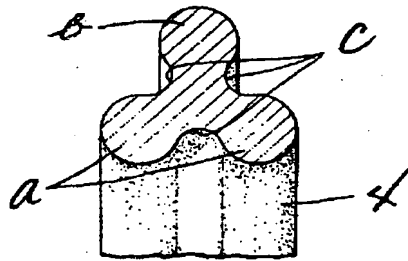
3

4

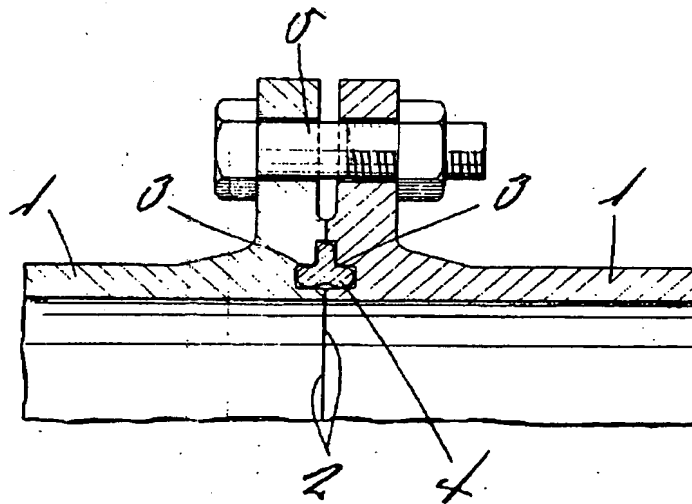
引用文献

実公 昭7-1185
実公 昭39-33516

第1図



第2図



BEST AVAILABLE COPY